# 横須賀水交会

## 再びの「会勢拡大」について
### ―会員数一千名をめざして―

横須賀水交会会長　土井克彦

新年度を迎えるにあたり、本紙面をお借りして横須賀水交会（以下本会と云う。）会長としての所信の一端を述べさせて頂きます。

一昨年7月、水交会は公益財団法人としての認可を受け、組織として大きく飛躍できる基盤が整いましたが、慢性的な会員数の漸減傾向は治まる気配が無く、現在も水交会にとって「会勢の拡大」が喫緊の課題として重くのしかかっております。

かかる情勢を受け、本会としても昨年度会務運営の柱として「会勢拡大」を掲げ、会員の方々、わけても役員諸兄にその為の活動を強く要請しました。

その結果、早くもその効果は表れ、昨年3月末の会員数七百余名であったものが本年3月末で約八百名弱を数えるまでになりました。（会員増の詳細は次回総会で報告）

新たに入会された方々の顔ぶれをつぶさに見ますと、その多くは一般有志会員で占められており、その内には木村横須賀商工会議所会頭や広川前横須賀市副市長を始めとする地元の方々、更には関東一円に留まらず遠くは九州方面の防衛関連企業の方々も多く含まれていることが目をひきます。これらは所謂「隠れ海上自衛隊ファン」に対する会員の発掘努力が報われた証左と考えられます。

この一般有志会員の増加は、優れて海上自衛隊並びに水交会に対する一般社会における理解と信頼の醸成に大きく貢献するものであり、こうした「隠れ海上自衛隊ファンの発掘努力」を今後とも会勢拡大の一つの柱と位置付け、引き続き踏襲して行きたいと考えております。同時に、今後これらの方々の期待に如何にして応えて行くかが大きな課題となることを覚悟して臨むことが肝要と考えてもおり、執行部では既存事業の再活性化（魅力化）を図ることを目指します。

例えば、本会が主幹事を勤めます本年7月の「横須賀夏期防衛講座」においては、講師として前防衛大臣の森本 敏氏の招聘に取り組み、9月実施予定の「部隊研修」では、従来の横須賀在籍部隊一辺倒を改め、新たな国産哨戒機Ｐ―１が配属された海自厚木航空基地研修の実現化を模索しております。更には年間２回実施の靖国参拝、ゴルフ・卓球・カード等同好会活動、年１回実施のバス・ツアーに関しても会員への周知を図り、その充実に努める所存でお

発行　平成25年4月24日
編集　横須賀水交会事務局

**横須賀水交会主要行事予定**

10月までの主要行事予定は、次のとおりです。なお、最新の情報は横須賀水交会ホームページ（http://y-suikoukai.daa.jp/）で御確認下さい。

**1　練習艦隊入港歓迎行事**
（1）期日　5月9日（木）
（2）場所　逸見岸壁

**2　馬門山海軍墓地墓前祭**
（1）期日　5月11日（土）
（2）場所　馬門山海軍基地

**3　海軍の碑記念行事**
（1）期日　5月27日（月）
（2）場所　ヴェルニー公園

**4　24年度総会・講演会・懇親会**
（1）期日　5月31日（金）
（2）場所　よこすか平安閣

**5　第26回ゴルフ大会**
（1）期日　6月3日（月）
（2）場所　エンゼルＣＣ

**6　靖国神社月例参拝**
（1）期日　6月20日（木）
（2）13面に関連記事

ります

いずれも生半可なことで実現できることとは考えておりませんが、それぞれの担当幹事の危機意識とその使命感で必ずや達成できるものと確信しております。

これらの会勢拡大活動により、公益財団法人としてより開かれた横須賀水交会の姿を追求して参ります。

他方、会勢拡大のもう一つの柱は「海曹出身の方々の入会促進」にあります。本件は本会発足以来の懸案でもありますことから、今後の会勢拡大活動の本丸と位置付け、全力を挙げて取り組む所存であります。

海曹出身者の入会促進につきましては、過去にも幾度となくその努力が払われましたが、旧海軍における水交会が士官出身者で構成される親睦会的色合いが強かったため、現在の水交会も又その流れを汲んでいるのではとの認識が消えず、それが海曹出身者の入会を拒んできた一要因となって来たことは否めません。今一つ、退官予定者への直接的アプローチ（勧誘）が個人情報保護法という厚い壁に阻まれ、その実施が困難となっていることも見逃せない事実であります。この状況が永きにわたって続いた結果と所謂現代っ子気質の隊員が増えていることとが相まって、意外にも部隊への水交会という組織の浸透度合いは薄く、「名前は聞くがその実態は知らない！」「興味も無い！」というのが実情となっております。このため少々迂遠な道程とはなりますが、先ずは部隊に横須賀水交会の存在感を育むことから事業展開を図る所存であります。その詳細は総会報告に譲りますが、一例として横須賀教育隊の練習員等修業式において、優等生に対し横須賀水交会としての激励賞を贈呈する事業に着手します。本件は既に本部の了解を取り付けており、本部からの資金的裏付けも有るやに聞いております。又、今後横須賀地方隊で企画実施される各種競技大会に横須賀水交会杯を寄贈する事業も実現化の方向で鋭意検討中であります。

同時に、海曹出身者の入会促進に直結する事業も併行して展開して参ります。その詳細は割愛しますが、個人情報保護法に抵触することなく退官予定者に本会の実情紹介の機会が得られる方策を担当幹事が総監部管理部と調整を図っており、その早期具現化が待たれます。いずれにしてもこれらの事業展開が可能となった背景には、現横須賀地方総監である武居海将の本会活動に対する深いご理解と強い協力姿勢が有る賜物であり、この場をお借りして厚く感謝の意を表します。

処で、海曹出身者の入会促進活動を進めるにおいては、今一つ高いハードルが待ち受けております。それは入会して頂いた後の彼らの活動の場を如何に設けるかにあります。その腹案無くして担当幹事による横須賀水交会の実情紹介は成り立ち得ません。幸いにも昨年度後半、元自衛艦隊司令部先任伍長であった下湯瀬健徳氏、並びに元女性自衛官で横須賀造修補給所先任伍長を勤められた高橋正美氏の本会入会の朗報を得ました。今後両氏のご意見を良く伺いながら、共に海曹出身の方々の入会促進に繋がる既存・新規を問わぬ事業展開について検討を加え、早期に今後の会務運営に反映させる所存であります。そのためにも総監部管理部門だけとの調整に留まらず、「横須賀上級海曹会」や海曹出身OBで構成される「横須賀曹友会」との交流を深め、同一目線で共に諸懸案の処理に当たる姿勢を打ち出して参ります。

以上、新年度を迎えて横須賀水交会会長としての所信を述べさせて頂きました。それは少々乱暴に映るかも知れませんが、現状に照らして本会の会務運営の目標を唯一「会勢拡大」に置き、全ての事業をそれに沿う方向で展開しようとするものに他なりません。

しかし、会勢拡大活動は決して現

**7　夏期防衛講座**

（1）期日　7月27日（土）

（2）場所　神奈川県立保健福祉大学　講堂

**8　部隊研修**

（1）期日　9月5日（木）

（2）場所　海自厚木航空基地

（3）14面に関連記事

**9　秋の旅行**

（1）期日10月25日(金)～26日(土)

（2）場所　未定

「栃木日光東照宮」又は「静岡久能山東照宮」

（3）14面に関連記事

役隊員や一般有志におもねるもので在ってはならず、あくまでも横須賀水交会会員としての誇りと矜持を保ち、毅然とした態度で水交会活動に当たることを明言しておきます。その上で【会員数一千名の獲得】を目指しますので、今後とも会員皆様のご理解とご支援を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

## 「司令官挨拶」

### 自衛艦隊司令官　海将　松下　泰士

横須賀水交会におかれましては、海上自衛隊への深いご理解のもと、平素から横須賀地区に所在する部隊、機関に対し暖かいご支援を賜り、この紙面をお借りしまして心から厚く御礼申し上げます。

さて、海上自衛隊は、発足以来60年余を経過しましたが、冷戦構造の崩壊以降のわが国の安全保障環境の変化とこれに伴う我々の任務あるいは業務の変化は目まぐるしいものがあります。今、自衛艦隊が直面しておりますのは、ポスト冷戦で予測された、伝統的な国家間の問題とテロなどの新たな脅威や多様な事態に他なりません。

国家間の問題として、中国は、国防予算を公表ベースで、３年連続の２桁の伸び、額にして過去10年で３倍とし、空母の建造をはじめ装備の近代化を急速に推し進めるとともに、露骨に海洋権益確保のための諸施策をとっています。尖閣諸島への具体的侵害は、国有化以降顕著になりましたが、これは、遅かれ早かれ実行されたものと考えています。また、艦隊を列島線を越えて太平洋に進出させ、訓練するなど、Ａ２ＡＤ戦略の実効性を高めようとしているようです。

北朝鮮は、昨年、２度にわたり人工衛星と称して弾道ミサイルの発射実験を実施した後、今年２月には、３回目の核実験を行い、核弾頭の小型、軽量化に成功したと発表、３月に入ると、朝鮮戦争の休戦協定の白紙化を表明し、30日には、韓国との「戦時状況」宣言したことに続き、翌日には、米軍基地のある横須賀、三沢、嘉手納もミサイルの射撃圏内にあると警告するなど、挑発的メッセージを発信し続けています。

一方、ソマリア沖では、減少傾向にあるとはいえ、海賊行為が依然として生起しており、その方法は巧妙化、広域化し、海洋の秩序に対する重大な脅威であり続けています。また、ホルムズ海峡においてもイランの核開発問題を巡って予断を許さない情勢が継続しています。

更には、昨年、アルジェリアでテロが起きましたが、これは明らかに日本人を標的にしたものと言われており、在外法人の保護に関する自衛隊活用の議論が活発化したのは記憶に新しいところです。

このような情勢のもと、自衛艦隊は、わが国周辺海域の警戒監視やＢＭＤに従事しておりますが、この分野での任務には、緊張を強いられることが多くなりました。

また、平成21年からソマリア沖・アデン湾での海賊対処行動を継続していますが、３月下旬の時点で、艦艇部隊の通算護衛実績は約４５０回、約３、０５０隻となり、航空部隊の任務飛行回数は約８７０回になりました。この任務飛行における他の実施国とのシェアにおいて、我が部隊が６割以上を占めるなど、これらの活動は、海洋国家としてのわが国の国益と国際的な責任に寄与しているものと確信しております。

その他、国際社会における多層的な安全保障協力に資する業務にも積極的に取り組んでいるほか、南海トラフを震源とする大震災への対応についても研究を加速中です。

この様に、大きく変貌する安全保障環境下にあって、自衛隊の本来任務に加え、活動機会は増加し、任務遂行の困難さは増す一方ですが、自衛艦隊が、連綿として引き継いできた「精強・即応」を旗印に掲げ、日米共同、統合を深化させつつ整斉と任務を遂行しゆく所存です。今後とも、一層のご指導、ご鞭撻、そしてご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、横須賀水交会の益々のご発展と皆様のご多幸を祈念し、挨拶とさせていただきます。

【投稿】

## 護衛艦「ひゅうが」乗艦体験記

会員　田村　政信

平成24年10月5日、１１００にＪＲ横須賀駅に到着した。時々、海上自衛隊横須賀総監部を訪れるが、今日はいつもと違い期待と喜びに心がときめいている。なぜならば、護衛艦「ひゅうが」（ＤＤＨ）、ヘリコプター空母に乗艦し、横須賀軍港より横浜の大桟橋まで短期航海を体験できるからである。思えば３年前の観艦式以来、乗艦を熱望していた憧れの君の乗艦が実現出き感無量である。

乗艦まで時間があるのでメルキュールホテルの19階のレストランで昼食を取った。もちろん横須賀軍港が一望できる席を取った。眼下には総監部の横に１３，５００トンの「ひゅうが」が停泊し、吉倉桟橋にはイージス艦「きりしま」及び10月14日の観艦式に旗艦となる「くらま」が静かに停泊していた。一方、旧横須賀鎮守府側の岸壁には２隻の潜水艦が出港準備で慌しく隊員が動いていた。

１２００、乗艦手続きのため受付に行った時、元１等海佐佐々木俊也殿と10年ぶりに再会した。佐々木殿は各護衛艦の艦長、２００６年、海上自衛隊の初級幹部を育成する練習艦「かしま」の艦長で北米・中米、２００９年の観艦式においては輸送艦「おおすみ」（８，９００トン）に乗艦し、第１輸送隊司令として指揮を執られ、その後東南アジア、パキスタン等多くの海外派遣の経験を持つ「もののふ」（武人）であり、私の尊敬する友人である。今日の夕刻、横浜で開催される懇親会での再会を約し分かれた。

「ひゅうが」の右舷側の船腹より格納庫に入ると艦尾にはＳＨ―60Ｊ又は60Ｋが１機、展示されていた。

それにしてもなんと広い格納庫であろうか。格納庫を使用して艦長の「ひゅうが」の説明があり、終了と同時に艦首にある昇降機（リフト）によって甲板に出た。帝国海軍の空母「赤城」・「加賀」におけるリフトに艦載機が昇げ・降りの面影を彷彿とするような場面であった。通常はＳＨ―60Ｋ、ＳＨ―60Ｊ、ＭＨ―53Ｅ及びＭＣＨ―１０１がリフトで昇げ・降りされている。

甲板に出ると「ひゅうが」は岸壁より離れ、微速前進していた。動力はガスタービンと言う。なんと静かな船出であろうか。すべて初めての体験のためすぐ感動を覚える。

横須賀軍港を出ると14日の観艦式のため多くの護衛艦が移動していた。「ひゅうが」の艦番号は１８１であるが、同型艦番号１８２が通り過ぎた。「いせ」である。

「ひゅうが」は引き続き、横浜の大桟橋に向かってゆっくりと前進した。ついにベイブリッジに到達した。艦首にある１分間に４，５００発の発射が出来る高性能20ミリ機関砲（ＣＩＷＳ）の近くの甲板から橋を見上げると多くの車が橋を行き来するのが見える。「ひゅうが」の艦橋はかなり高いのでベイブリッジを通過できるのかとの私の問いに、隊員は「クイーンエリザベスⅡ世号も通過していますので心配ありません。」という明確な答えが返ってきた。本当に通過できた。

夕焼け空が見える最終目標地の横浜大桟橋に接岸した。「ひゅうが」の前には既に輸送艦「くにさき」が接岸していた。下艦し、退役された将官及び佐官クラスが集うニューグランドホテル近くの「Café La Boheme」という懇親会場に向かって黄昏時の並木道を歩んだ。それにしても全てに感動し、充実した短い一日であった。

【投稿】

## ＴＰＰ　環太平洋戦略的経済連携協定と日本

会員　佐野　恭子

外国からの輸入に関税をかけて国内市場で守られて来た例えば米、乳製品生産は、自由貿易になれば根こそぎ破壊されると思われている。乳

牛は寒冷で乾燥した気候を好む。昨秋ニュージーランドを夫と自炊して旅した時、牛肉、乳製品は流石に良くて安かった。けれど日本の林檎のよさは、これは世界に比するものが無い。日本の農業製品の多くが、意外に国際競争力を持っていると私は思う。一昨年12月サンフランシスコに旅した。林檎を３個トランクに入れてSF空港関税の申告に「林檎は持っていません」と入国したとたんトランクのX線検査でばれた。20歳くらいの黒人係官の態度は、米国の一面を私に教えた。車で言う煽り。「これは何だ！！え？」「これはなんと言う名前だ！！え？え？」「何と言うのだ！」私は黙って下を向いていた。パスポートをコピーされた。煽って罪人を作り上げたい彼の意志を痛感した。実は渡米はもう一日早いはずだった。前日、私は、デルタ航空から引き摺り下ろされた。機体が成田で滑走路に出る直前に引き返し、私とトランクを降ろした。それで一時間余かかったろう。スチュワーデスが、私を座席に座るよう指示した時、私が彼女の「目を見て指示を受けなかった」為である。裁判になると思い降機する事、抵抗せずに隣座席の人に名刺を貰った。「裁判になると思うから。」彼はメールアドレスも書いてくれた。６１８便はその時までに既に３時間半遅れていた。到着予定が正午となり昼食に会議をする連中は諦めていた。私が「機長の判断を仰ぎたい」「通訳を入れてくれ」と争えば午後一杯ふいになる。私は３００人近い人のクリスマス前の時間を守りたかった。その時つくづく米国人全員に共通の文化が無い、英語を解さない人も多く、法でしか国家の一体感を保てないのかと思った。米国と貿易関税について、交渉していく困難さは想像に余りある。ミスター円と言われた榊原英資さえ「米国と交渉したことのないものにその困難さは解からない。」と言う。けれども、いま無名の若い官僚たち、ビジネスマンに私は期待している。

　私は日本の最後の切り札、世界一のインフラは日本人の脳の中に、前頭前野にあると思っている。ここに日本人の価値体系・何を名誉とし、何を尊ぶか・・幼時にうけた家庭教育が入っている。ケニアから帰国したＪＡＩＣＡの講師が「５歳までは一切の教育にタッチしない。その時期われわれが関わるとケニア人ではなくなる。」国連大学の講演で人身売買によってカンボジアからタイへ売られてきた子供たちは、親元に帰れても、自分が何者なのか一生確立できない。幼い時に叩き込まれた日本人の躾のみごとさを、海外にいて私は思う。そして学校教育。日本の教育は人口98％タイルで比較して世界一と思う。統計上の「分散・ばらつき」がとても小さい。誰もが小学校で学ぶ教育漢字は１００６文字、中学で学ぶ常用漢字が９３９文字ある。九九の出来ない人はいない。基礎教育の高さをここまで持って来るのに、多くの国は１００年単位でかかるだろう。公共交通機関、上水下水、医療レベルと医療保険・・・目に見える日本の社会インフラも、殆ど世界一だ。目に見えない「迷惑をかける」「後ろ指をさされるな」「徳」と言った教育は、金では買えない。決して輸入する事はできない。「米百俵」を、小林虎三郎が売り払って藩校を作り、石田梅岩が江戸期に女にも教育を分けてくれた。当時、そしておそらく今も女性の識字率は世界最高と思う。こういう日本の力はＴＰＰに参加し、外交交渉で散々辛酸をなめた後、きっと自覚される。日本の米、果物、粉ミルク、紙おむつが中国の反日運動の中で全く人気を失わなかった。これは言わば信頼を売っていたのだ。日本にしか作れない高品質の自動車用鋼板があり、いま日の出の勢いにあるトルコが一昨日の新聞記事で三菱重工と仏企業連携の原子力発電所と売電システムを２兆円で買った。

　昨秋旅したニュージーランドは、竜馬や西郷が英仏のアジア侵略をひしひし感じていたころ、刺青に半裸のマオリと、山高帽の英国人がたった一人の通訳を介して契約し創った国だ。最も早い婦人参政権、オールブラックスがマオリの神事でラグビー試合を始めるように人種差別が殆ど無い。けれど実生活に用いる工業製品の本当に多くが、日本製だった。羊毛と丸太輸出の一次産業、観光の三次産業で成り立つ、人の心の暖かい国だ。日本は二次産業、加工貿易、つまりは自分の両手だけを頼りに生きて来た。旗艦三笠を買った当時の、日本の外貨獲得の多くは手作業を要する生糸、緑茶、精巧な雑貨だった。

この力をアフリカ諸国、ギリシャ、産油国が自分のものとするには１００年単位でかかる。日本の支払ったこの長さを、世界は知らない。教育は物凄く時間がかかる。数字上で中国が日本を凌いだと言う人もいる。けれど中国での日本文化、アニメや寿司、音楽、クールジャパンの人気は大変高い。若者にとって憧れの国だ。1月、記念艦三笠は産業技術総合研究所・メタンハイドレートセンター長、成田英夫氏の講演を創った。これは「海とともに生きる」シリーズの３番目の講演だ（２番目は海上保安庁向田前警備救難監）産総研は日本が持つ最大最高の技術者集団で産学官一体のものである。この講演のあと２ヶ月して地球深部探査船「ちきゅう」は、海底からメタンハイドレートを産出し青い海原の上に、華やかな炎を噴出した。炎は、日本の世界における名誉ある地位を、象徴した。三笠は、成田氏の講演に中学生を招こうと、近隣の中学校にお誘いの電話をかけた。土曜日の午後ゆえ３校が断わってきた。４校目の常盤中学科学部20名が招かれマイナス１５０度で固体になっているメタンハイドレートの実物を手に取った。生徒達はその排出するメタンガスの音を聞いた。受講者は一生その音と青い炎を忘れないだろう。三笠の、海と、次世代の教育を視野に入れた企画を創り、未来に向けても努力していく姿を尊く思う。

## 「横須賀市議会便り」

**市議会議員・幹事　木下　憲司**

２月18日から３月27日の間、平成25年第１回横須賀市議会定例会が開会されました。例年第１回定例会は予算審議が主体となります。平成25年度当初予算案は、一般会計総額約一千四百十九億四千万円の市長提案を、議会審議において約三千五百万円減額修正して可決しました。修正（削除）した事業は、①横須賀美術館の新企画展②谷戸地域の空き家を改造した居住体験③シティセールス・プロモーションとしての居住体験④自治基本条例の周知に関する事業　の４点です。いずれの事業も、吉田市長の肝いりとして提案されましたが、議会として慎重な審議を経た結果、メディアなどのムードに流された、検討の底が浅い事業であること、期待成果が不十分な事業であること等の理由により修正に至ったものです。

今年６月には横須賀市長選挙が行われます。現吉田市政１期４年間の決算となるわけですが、前述の予算修正に見られるごとく、首を傾げる市政運営が多々ありました。現在のところ立候補表明しているのは、前横須賀副市長の広川さとみ氏と現市長の吉田氏です。（他に１名左派系の女性がいます）市政の混乱に終止符を打ち、真に横須賀を愛し、市政を熟知して、安定した市政運営が期待できる人材の登板が望まれます。

## 【参加行事等紹介】

### １　護衛艦ひゅうが体験航海

平成24年10月５日(金)観艦式関連行事のため横須賀から横浜大桟橋へ進出する護衛艦「ひゅうが」の家族広報等に合わせ、平成24年度横須賀水交会部隊研修が行われました。日米ネービー友好協会及び自衛隊父兄会神奈川支部を含め会員等約４００名は、約１６００名の隊員家族の皆様とともに東京湾の秋晴れの素晴らしい景色を楽しみながら、素晴らしい航海を体験させて頂き、海上自衛隊の第一線部隊について一層の認識を深めることができました。

参加者は、横須賀地方総監部厚生センターに集合し受付を済ませ「ひゅうが」に乗艦しました。出航前に、「ひゅうが」の概要説明が実施されました。２番艦「いせ」の就役、「ひゅうが」と海自艦との比較、全通飛行甲板を採用した等の「ひゅうが」の特徴、Ｆ

ＣＳ―３多目的レーダー等の主要武器、さらには「22ＤＤＨ」の概要等、多彩で興味深い内容でした。

「ひゅうが」は１４００に横須賀逸見桟橋を出港し横浜大桟橋へ向かいました。航海中、艦内格納庫内において、大型スクリーンを活用し乗艦者に対して「ひゅうが」の概要、艦内隊員の活動紹介等が画像と寸劇で紹介されました。艦内で火災が発生した場合における応急隊の初期消火活動では、日ごろの訓練成果を見事に発揮し迅速かつ的確な消火活動を披露してくれました。海中に潜航して海上交通路を破壊する潜水艦を捜索し搭載する哨戒ヘリコプターや魚雷により撃破する対潜戦では海上自衛隊の能力の高さに皆の関心が高まりました。高速で低空を飛来する敵ミサイルを破壊する対空戦では、隊員手作りのミサイル模型が格納庫内を飛翔しユーモアたっぷりの展示となりました。乗船した対象船舶の通路などをくまなく検査する立ち入り検査隊の活動の紹介では、完全装備のひゅうが隊員が映像を活用しながら、実戦さながらの動作を繰り広げハラハラドキドキの臨場感あふれるアトラクションとなり海上自衛隊の勤務の厳しさを改めて実感させられました。

その後、昇降機によって格納庫から飛行甲板へ移動し広々とした飛行甲板の大きさに感心するとともに、観艦式に参加予定の「ひゅうが」型２番艦、護衛艦「いせ」や潜水艦とすれ違いひゅうがが発光信号であいさつを交わすという場面を見るなど得がたい機会にも遭遇することが出来るなどシャッターチャンスにも大いに恵まれました。艦上では、装備品について乗組員の方々から直接貴重なお話を聞くことが出来ました。乗員の皆様の懇切丁寧な案内ときびきびとした態度に接し、精強即応の海上自衛隊を支える隊員の皆様の尊い職責に関して会員一同大変な感銘を受けておりました。１５５５頃、横浜ベイブリッジをくぐり、横浜港大さん橋国際客船ターミナルに到着し、「おおすみ」型３番艦「くにさき」の隣に接岸しました。静かにブリッジをくぐる美しさにあふれた「ひゅうが」の姿は体験航海参加者の思い出に長く残ることでしょう。まだまだお元気とはいえ88歳の会員をはじめご高齢の方が多く含まれておりましたが、きめ細かく安全に十分配慮していただき一人のケガ人も出すことなく無事終了することができました。夕刻、横浜中華街の Cafe LaBoheme に会場を移し、山本克也第１護衛隊司令、田邊明彦ひゅうが艦長を含め10名の現役隊員を交え約１４０名の水交会会員により平成24年度横須賀水交会部隊研修懇親会が開催されました。18名の女性会員が参加され、Cafe LaBoheme 心づくしの女性コーナーが特別に設けられました。なみなみと注がれピラミッド型に組み上げられた50杯のシャンペングラスのサービスに大歓声が沸き次々にカメラに収まるなど華やかで楽しいひと時を過ごしました。会員の皆さんは、親しく現役隊員と懇談し苦労話や経験談に花を咲かせながら大ビンゴゲームを楽しみ大盛況のうちに懇親会を終了しました。　横須賀水交会会員一同、今回お世話になりましたひゅうが艦長はじめ関係の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、海上自衛隊の今後益々のご活躍をさらに支援していこうと固く誓った部隊研修でした。　（安齊幹事記）

## ２　いかづち帰国出迎え

平成24年10月25日（木）、ソマリア沖アデン湾において、第12次海賊対処活動に従事していた護衛艦「いかづち」（艦長　鈴木雅博２佐）が任務を終えて、横須賀に入港、帰国した。今年５月11日出港、６月上旬から、現地で海賊対処活動を行い、任務を終了し、この度帰国したものである。

武居横須賀地方総監執行による帰国行事は、小泉衆議院議員、県議会議員、市議会議員、海上保安庁関係者、日本船主協会関係者、松下自衛艦隊司令官ほか各部隊指揮官、隊員、

家族など多数の出迎えがあり、横須賀水交会からも多くの会員が参加し、自衛艦旗小旗、水交会旗を掲げて盛大に出迎えた。

艦長帰国報告、内閣総理大臣訓示（横総監代読）、自衛艦隊司令官訓示、来賓紹介などの行事は整斉と進められた。

艦長はじめ乗組員の逞しく、凛々しい態度は、任務を完遂した誇りに満ちており、頼もしいものであった。

第12次隊は、34回、１５０隻の船舶を護衛し、安全に航行させた。

公表された資料によると、第12次派遣海賊対処行動水上部隊までの累計護衛実績は約２６００隻に及んでおり、その成果は国際的に、高く評価され、関係船舶からは格別の感謝をされている。

海賊対処は、海上交通の安全を確保するための長期にわたる任務遂行であり、厳しい環境条件のもとでの緊張は計り知れないことと考えます。

国際的な責務を果たし、国益に寄与した指揮官及び乗員各位に対して、深甚の感謝と敬意を払います。次の任務に邁進するため、短期間かと思いますが、休養され英気を養っていただきたい。（本多事務局長　記）

## 3　第25回ゴルフコンペ

平成24年11月5日(月)、第25回横須賀水交会主催ゴルフコンペを千葉房総半島の鹿野山カントリー倶楽部にて開催しました。

当日は絶好のゴルフ日和とはいきませんでしたが、曇りベース、最高気温21度無風と天候に恵まれ、半袖にてプレイする人も見受けられました。参加者は土井会長以下47名と前回よりもやや少ない人数でしたが、陸自出身者1名、民間からの女性の参加者が3名、そして呉水交会から久々に横須賀に返り咲いた白川久美一会員の参加等、華やかさとにぎやかさの入り混じった楽しいプレイをすることができました。

競技は従来通り新ペリア方式で実施しました。ただし、同じ人が入賞しないように過去3回のコンペで1、2、3位に入賞した方は、新ペリア方式で出てきたハンディキャップからそれぞれ30、20、10％を減点することにしています。この減点は3回コンペに参加しないと消えません。

今回は、平田健氏が、グロス95、ハンディキャップ24、ネット72で優勝、2位には東島栄氏（85、13.2、71.8）、3位は佐藤今朝雄氏（84、12、72）という成績でした。

今回優勝の平田氏は初優勝であり、見事に副賞のキャディバックを獲得して大喜びでした。また、東島氏も本来の実力を遺憾なく発揮され、副賞のパターを獲得されました。ベストグロス賞には、過去4回優勝の近藤義美氏がグロス75で受賞、加えて数えきれませんが、エイジシュートの偉業を達成されました。優勝されました平田氏から、「一緒に廻っていただいた良いお仲間と新ペリア方式に恵まれて、思いもかけず優勝させていただきました。次回からももっとレベルアップして再度の優勝にトライしたいと思います。」とのメッセージです。

水交会主催のゴルフコンペは会員の親睦を目的としたゴルフ大会ですが、水交会会員のみならず、陸海空

自衛隊のＯＢや友人・知人・家族まで幅を広げて参加者を募り、水交会の活動に理解を深めていただければ幸いと思っています。またこの中から水交会に入会していただければこのコンペの目的を十分に果たすことができるものと考えています。たくさんの方に声をかけて参加者を増やしていただくよう、ご協力よろしくお願いします。（迫幹事　記）

## 4　防衛大臣からの感謝状の贈呈

平成24年11月30日（金）、横須賀地方総監部において本会に対する「防衛大臣からの感謝状」の贈呈を受けました。

その内容は東日本大震災に際し、災害派遣等の活動に従事した自衛隊員に対し多大な支援を行ったことへの感謝を表すもので、横須賀総監部管轄下で受領した機関は、横須賀水交会を始めとする防衛関連諸団体、ウスイホーム株式会社等の民間企業、これに日本オリンピック委員会等の機関が加わり、合計11団体でありました。感謝状の贈呈は武居総監が代行され、本会では筆者（土井横須賀水交会会長）が代表して受けて参りました。

感謝状に併せ森本防衛大臣からの短いコメントが寄せられており、その中には「自衛隊員が整斉と円滑に業務を遂行できましたのも、皆様方のあたたかい御支援と御協力のおかげと、あらためて御礼申し上げます。防衛省・自衛隊は国民の命を守るため、引き続きその責任を果たしてまいります。」との一文が記載されておりました。

これを読んだとき真っ先に思い起こしましたのは、当時派遣活動から一時寄港した艦艇乗組員から聞いた「横須賀水交会から我々に贈って頂いた激励品は全て被災地の子供達に渡してきました。皆大変喜んで受け取ってくれました！」との言葉でした。この時筆者は思わず目頭の熱くなるのを覚えるとともに、我々の後輩が見事に育ってくれていることを痛切に感じ取ることができました。

同時に、横須賀水交会がこのような海上自衛隊を支援できることを改めて誇りに思ったものでした。

昨今の内外情勢からしますと、嫌が上にも海上自衛隊への国民の期待度は高まるばかりであります。その中で、前記挿話が示す通り不言実行を旨とする海上自衛隊員は脈々として流れる海軍魂を決して忘れず、必ずやその期待に応えてくれるものと確信しております。

贈呈式後は当日が金曜日であったことから、武居総監の粋な計らいで部隊において出されているカレーライスによる昼食会が催され、その後大震災でも活躍した岸壁係留中の大型ＤＤＨ「ひゅうが」の艦内見学が行われ、総監部を後にしました。

なお、感謝状はその後の幹事会で役員諸兄に披露し、現在事務所で保管しております。（土井会長　記）

## 5　平成25年横須賀地区防衛団体賀詞交歓会

横須賀地区の防衛関係者にとりましては新年の幕開け行事ともなっております「平成25年新年賀詞交歓会」が、1月20日（日）横須賀商工会議所多目的ホールにおいて盛大に執り行われました。

この賀詞交歓会は、防衛協力に係る9団体（横須賀防衛協会、横須賀水交会【主幹事】、隊友会横須賀支部【副幹事】、財団法人三笠保存会、海上自衛隊ＯＢ横須賀曹友会、横須賀自衛官募集相談員会、桜遊会、自衛隊父兄会三浦半島支部及び横須賀海

交会）が共催して近傍の陸・海・空自衛隊部隊指揮官、米海軍部隊指揮官、横須賀市長等を招いて新春の賀詞を交歓するとともに、自衛隊を激励し、併せて、各団体、会員相互の親睦を図ることを目的に例年実施されているもので、当日は天気に恵まれ約２６５名の皆様が参加されました。

交歓会は、国歌斉唱、共催団体代表者の紹介、共催団体を代表して小山満之助横須賀防衛協会会長の挨拶、来賓を代表して吉田雄人横須賀市長と武居智久横須賀地方総監の祝辞、来賓紹介、祝電披露、鏡開きの順で進行致しました。吉田横須賀市長は冒頭に共催９団体の名称を何も見ずに正確かつ滞りなく発声され、参加者から驚きの声と拍手が起きました。

祝辞は「国防に対する市民の期待は大きくなってきている。皆様とともに横須賀市を自衛隊及び米海軍と共存共栄する都市として発展させていきたい。」との力強い決意が述べられました。

武居横須賀地方総監からは、「中国の動静に海保・自衛隊が対応しているが長期化の様相を呈している。」と緊迫した国際情勢の一端が紹介されるとともに「防衛予算が11年振りに増額される見込みである。」との明るい話題も提供されました。

来賓紹介では浅尾慶一郎衆議院議員、小泉進次郎衆議院議員、佐藤正久参議院議員から力強いご挨拶を頂きました。

なお、宇都隆史参議院議員は公務により急遽参加できなくなりましたが、多数の県議会議員、市・町議会議員が参加されました。

引き続く、鏡開きにおきましては各界を代表する10名の皆様（吉田横須賀市長、國分防衛大学校校長、武居横須賀地方総監、クロイド在日米海軍司令官、小山横須賀防衛協会会長、山口横須賀市議会議長、木村横須賀商工会議所会頭、池田護衛艦隊司令官、小林陸上自衛隊通信学校長、田村横須賀上級海曹会会長）が、新潟県新発田市の菊水酒造会長 高澤英介氏（横須賀水交会会員）から毎年寄贈を頂いている「菊水」と、海軍に因んだ「元帥」の四斗樽を参加者全員の「ヨイショ」の掛け声に合せ、見事に叩き割り、会場は最高の盛り上がりの時を迎えました。その後、田邊輝司良防衛大学校幹事の発声により乾杯が行われ、以後、懇談の時間となりました。会場内のあちらこちらでは陸・海・空自衛官、ＯＢ、各団体代表者等が和気藹々と懇談する姿が見受けられ、当初の目的である親睦を十分に図ることができました。

楽しい時間は早く過ぎると言われますが、散会後も話し足りなかった一部の参加者は会場の勢いを保ったまま市中へ繰り出し横須賀市の活性化に大いに貢献することになったようです。

（佐々木幹事　記）

## 6　お疲れ様でした！　潜水艦「わかしお」自衛艦旗返納行事

平成25年3月5日（火）、前日までの寒さが信じられないような暖かい

陽ざしを浴びながら潜水艦「わかしお」の自衛艦旗返納行事が執り行なわれました。

会場となった米海軍横須賀基地内第1バースには横須賀市長、市議会議長をはじめとする地元関係者のほか、横須賀水交会からも土井会長を先頭に会員約20名（内初代艦長上田氏、二代艦長酒井氏を含む。）が参列いたしました。部内からは第1護衛隊群司令、第2術科学校長や潜水医学実験隊司令など潜水艦部隊以外からも多くの指揮官が参列され、ドンガメ達を含めると総勢３００人近い方々が厳かに執り行われる儀式を見届けました。

横須賀音楽隊による国歌吹奏に合わせて艦尾旗竿に翻っていた自衛艦旗が降ろされ、最後の「わかしお」艦長である福山2佐から武居横須賀地方総監に返納される際には一瞬会場内が厳粛な空気に包まれ、この行事が「艦のお葬式」と称される所以を改めて認識させられました。

総監訓示では、「わかしお」が就役以来19年間で地球13周分に相当する距離を走り回り、3回の派米訓練や海演、戦技においても大いに活躍したことを称え、歴代乗員の努力に深く敬意を表するとともに、有終の美を飾った乗員の新配置でのますますの活躍を希望する旨の訓示がなされました。なお、「わかしお」は、平成6年3月1日に「はるしお」型5番艦として就役、途中で呉から横須賀への転籍等がありましたが、最後まで作戦潜水艦として第一線で活躍し、退役までの航海時間は４７，０００時間、潜航回数も６００回を上回っております。

最後に軍艦マーチに送られながら乗員34名が退艦して行事は全て終了しましたが、参列者たちはハッチが閉められた「わかしお」に「長い間ご苦労様でした」と心の中でつぶやきながら会場を後にしていました。

余談になりますが、現防衛大綱で「おやしお」型潜水艦の艦齢を延長することによって保有潜水艦の隻数を増していくこととされておりますので、しばらくの間、横須賀で潜水艦の除籍行事を見る機会は訪れないと思います。

（永田幹事　記）

## 7　てるづき初度入港歓迎行事

平成25年3月14日（木）、護衛艦「てるづき」（艦長　林田嘉信2佐）が横須賀港に初入港しました。

同艦は「あきづき」型護衛艦の2番艦として三菱重工長崎造船所で建造され、平成23年9月に進水、本年3月7日に就役し、第二護衛隊群第六護衛隊に編入された最新鋭艦です。

横須賀音楽隊が歓迎演奏をする中、松下自衛艦隊司令官ほか各部隊指揮官、隊員、吉田雄人横須賀市長並びに一般市民、隊員家族、防衛諸団体の会員と供に、横須賀水交会も土井会長他多くの会員が参加し、自衛艦旗小旗、水交会旗を掲げて「てるづき」を盛大に出迎えました。

当日は雨模様という予報であったため、武居横須賀地方総監執行による歓迎行事は横監厚生センター内において実施されました。

参列者が待ち受ける中、乗組員が入場、整列した後、艦長入港報告、横須賀市長から「てるづき」の入港を心から歓迎するとともに活躍を期待していますとの歓迎の挨拶があった後、艦長および乗員代表に対し花束が贈呈され、最後に艦長の「しっかり任務に邁進します。」という旨の力強い挨拶で行事は終了しました。

ソマリア・アデン湾における海賊対処行動のように遠く日本を離れての活動から、周辺諸国の軍事的活動の活発化に対応するための我が国周

辺海域における行動に至るまで、新鋭護衛艦に対する期待はいやがうえにも高まらざるを得ない状況において、同艦の今後の活躍を祈念します。

（宮﨑幹事　記）

## ８　新型掃海艇「ちちじま」就役

平成25年3月21日（木）、小春日和のなかＪＭＵ（ジャパンマリンユナイテッド（株））横浜事業所鶴見工場において平成21年度計画中型掃海艇「ちちじま」の引渡し式及び自衛艦旗授与式が執り行われた。

この艇は、船体にＧＦＲＰを使用した「えのしま」型掃海艇の２番艇であり、排水量５７０トン、全長６０メートル、幅１０．１メートル、深さ４．５メートル、喫水２．５メートルであり従来の掃海艇に比し一回り大きくなっている。

式典は、防衛省及び建造所関係者等多くの参列者を得て、１１００開始され終始厳粛かつ整斉と行われた。初めに会社側から防衛省へ「ちちじま」の引渡しが行われ、「ちちじま」マスト上の JMU 社旗が降下された。

引き続き、自衛艦旗授与式が行われ武居智久横須賀地方総監から本田和久艇長へ自衛艦旗が授与された後、横須賀音楽隊の奏でる軍艦行進曲に乗って、艇長から自衛艦旗を託された先任士官を先頭に乗り組員総員が乗艇し後甲板に整列、最後に艇長が乗艇した。その後、大勢の参列者が見守る中、国歌「君が代」の演奏と共に自衛艦旗が艦尾旗竿に掲揚され、ここに自衛艦「ちちじま」が誕生した。

出港式は、祝賀会終了後１３０５から始まり造船所側から艇長及び海曹士代表に花束贈呈が行われた。引き続き本田艇長から建造関係者及び参列者に対し「「ちちじま」は一昨年、世界遺産に登録された東京都小笠原諸島の島の名前を頂いたものです。この横浜:鶴見から、約５００マイル南、隔絶された中、大海原に磨き上げられた、かけがえのない自然を有する島の名前を頂いたことは光栄の極みです。

乗員一同、「ちちじま」の名に誇りを持ち、海上防衛の任に就くため、各種訓練を重ねチームを確立するとともに、FRP 掃海艇の２番艇乗員として、今後の礎を築くべく、専心職務に邁進する所存であります。

最後に、本日、ご臨席賜りました皆様及び、このように素晴らしい掃海艇に仕上げて下さった、「ちちじま」の建造と就役に関わられたすべての方々に、感謝申し上げます。本日は誠にありがとうございました。」との挨拶があった。

挨拶の後、自衛艦旗及び JMU 社旗の小旗が打ち振られる中、多くの式典参列者の見送りを受け配備先である母港横須賀に向かって雄々しく出港した。

我が横須賀水交会からも土井会長を初めそれぞれの立場で11名の会員が参列し「ちちじま」の就役を祝うとともに武運長久を祈った。

（小島幹事　記）

## ９　「ちちじま」初度入港行事

平成25年3月21日（木）、うららかな春の日差しの中、掃海艇「ちちじま」（艇長　本田和久３等海佐）が横須賀逸見岸壁に初入港しました。

横須賀音楽隊が歓迎の曲を奏でる

中、「ちちじま」は威風堂々と入港、横須賀水交会は土井会長をはじめ多数の会員が自衛艦旗・水交会旗を掲げ、横須賀初入港を歓迎するとともに乗員の激励を行いました。

武居横須賀地方総監執行による入港歓迎行事は、徳丸掃海隊群司令ほか横須賀在籍の各級部隊指揮官及び隊員、吉田横須賀市長はじめ地元各界の代表、横須賀水交会などの防衛諸団体の代表、会員が参列して行われました。

はじめに本田艇長が武居総監に入港報告、続いて横須賀市長から、「ちちじま」の入港を心から歓迎するとともに今後の活躍を期待しますとの歓迎の言葉があり、その後艇長及び乗組員代表へ花束が贈呈されました。

最後に本田艇長の挨拶があり、その中で、「世界遺産に登録された小笠原諸島父島の名前を頂いたことは光栄の極みであり、乗員一同「ちちじま」の名前に誇りを持ち、各種訓練を積み重ね、早期に海上防衛の一翼を担えるよう一致団結して専心職務に邁進します。」との心強い決意が表明されました。

入港行事のあと参列者に艇内が公開されました。「ちちじま」には最新鋭の掃海具一式が装備されており、今後、就役訓練を経て掃海部隊の第一線で活躍することになるでしょう。

掃海艇「ちちじま」の武運長久をお祈りします。　（松本幹事　記）

## 【ご案内】

### 1　靖国神社等月例参拝について

水交会本部が企画し実施している「靖国神社」、「千鳥ヶ淵戦没者墓苑」及び「防衛省慰霊碑」の月例参拝に、横須賀水交会は、年２回、会長や有志が参加しています。

また、横須賀水交会は恒例行事として参拝後に原宿の東郷神社境内「東郷記念館」にある水交会本部に移動し、直会を行い、心を通わせて参拝を終えております。

1　前回２月21日（木）の状況

土井会長、中尾幹事長、松崎顧問、佃顧問、道家総務総括幹事ほか多くの役員が参加しましたが、一般会員からも下里幹事がお嫁さんの裕子さんを、土井会長が萩野夫妻、服部さん、石山さんを、白川幹事が同期の後藤さんを、大久保幹事が能登谷さんをご案内すると共に、個人申し込みで梶谷さんが参加されました。従って過去最大の22名が参加しました。

その他には兵学校68小柳さん、71手島さん、77西崎さん、甲飛会 小島さん、津島さん、予科練 佐柳さん、電子会 ほか36名が参加し合計58名で実施されました。

(2)　靖国神社

京極高晴宮司の定年退任に伴い25年1月19日に徳川康久宮司に代わられました。

徳川康久氏は祖父は元貴族院議員で第15代将軍徳川慶喜の九男。伯父は海軍少佐で戦死し靖国神社に祭られておられるとのことです。学習院大を卒業された後石油会社に勤務。在職中に国学院大神道学科で学ばれ、退職後、徳川家康を祭った芝東照宮で神職となり、２００４年12月に亡くなった高松宮妃喜久子さまの葬儀では司祭副長を務められました。

参拝に先立ち、徳川宮司のご挨拶を頂き、水交会の参拝を大いに歓迎する旨のお話を頂きました。

(3)　千鳥ヶ淵戦没者墓苑

遺骨収集が進まないことと遺族の高齢化と合わせて、大きな心配があることの説明を受けました。

このことは、米国返還から45年になろうとしている硫黄島でもボランティアで遺骨収集を進めていますが、まだまだ半分に届かない現状であり、海外戦没者に目を向けると、１００万柱を越える更に大きな問題であるとの説明を受けました。

⑷　直　会

参加者23名（西村義明先輩の飛び入り参加も加えて）の大勢力になり、水交会名物のなべ祭りも開始時間の繰り上げサービスを受けるなどもありおおいに盛り上がりました。

今回始めて参加された一般会員の皆様や、飛び入り参加された西村先輩から直会は良い評判をいただいたものと考えます。

更に２次会で盛り上がった参加者も多数いたことで、盛会裏に終わることができたものと考えます。これもひとえに参加者のお心遣いと御霊の温かい思いが通った結果だと感謝いたします。加えて、矢部裕子様には、きめ細かいお気遣いのお手伝いを頂き、担当幹事として本当にお世話になりました。

２　参加のお願い

土井会長がいつも強調されているとおり、心ある水交会員を幅広く募り、水交会の会勢を増進するためにも、水交会に興味のある周りの方を積極的に月例参拝にお誘いしていきたいと考えます。

次回の月例参拝は、６月20日（木）です。お誘い合わせの上、また直会だけでも参加されて、想いを通わせて頂ければ幸いです。なお、バスの乗員制限から、概ね15名程度を募集目標と考えています

参加申し込みは、横須賀水交会のホームページにある連絡先から申し込まれるのが便利です。

その他、本部は毎月第３木曜日（４月と10月の例大祭を除く）に月例参拝を実施しておりますので、個人申し込みにより参加もできます。

## ２　横須賀水交会部隊研修概要

恒例の部隊研修は、９月５日（木）厚木航空基地部隊研修を計画しております。細部は調整中ですが、当日は１３００相模鉄道本線　相模大塚駅北口に集合し、海自車両便により厚木航空基地ターミナルビルへ移動後、海自航空機及び訓練施設等を見学する予定です。なお、可能であれば米海軍航空機及び施設等の見学も実施したいと考えております。

研修終了後は基地内オフィサーズクラブにて懇親会を実施する予定です。

７月下旬頃に案内状を発送する予定ですので、奮っての参加をお願いいたします。

## ３　横須賀水交会 秋の旅行

秋の旅行は、平成25年10月25日（金）から26日（土）の間に「徳川家康をめぐる旅」として「栃木日光東照宮」又は「静岡久能山東照宮」方面のいずれかに行くことで計画しております。参加希望の方は、横須賀水交会事務局までご連絡下さい。

## 訃　報

昨年11月以降、次の会員が逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。

（敬称略）

戸塚　勇一（幹予03）10月29日
谷　徹彦（幹候13）12月16日
景山　義弘（有志）　２月７日

（本多事務局長　記）

## 新（編）入会員（24年10月～25年２月）

次の方々が横須賀水交会に新たに入会（編入）されました。

（敬称略）

島田　美智雄（曹候03）小林　猛（有志）友安　浩（有志）小林　由憲（幹校59）小柳千恵子（事務官）石山　誠（幹候32）佐藤　裕子（有志）豊浜　芳夫（有志）吉岡　和則（有志）木村　忠昭（有志）上田　滋（有志）上田　順子（有志）大澤俊昭（曹候02）前原　博幸（有志）前島　邦夫（横教181）石井　昌行（有志）高橋　隆一（有志）吉田　伸蔵（幹候30）赤木　俊夫（有志）加藤　美志彦（有志）天野　榮理（有志）西　司（佐練210）上岡　昭春（遺族）江之口　譲（幹候30）隈部　周二（有志）鈴木秀男（横練188）栗又　信一郎（有志）佐古　桃子（有志）池田　克彦（有志）岩崎　光寿（有志）小原　望（幹校21）造隼　将人（有志）織田　裕輔（有志）浅野　陽一郎（有志）渕邊　正（横教）池澤　清（技官）齋藤　誠（有志）廣川聡美（有志）山﨑　恵一郎（有志）下湯瀬　健徳（生徒20）佐賀　幾雄（横教133）

（高橋幹事　記）

## 【編集後記】

例年４月号は行事の関係等で記事が少なく編集に苦労するという話を前任者から聞いておりましたが、本号は皆様のご協力のおかげで、充実した紙面となりました。投稿してくだされた方々には本紙面をお借りして御礼申し上げますとともに、ますますのご協力をよろしくお願いいたします。